

【学校経営目標】

- 「確かな学力・健やかな心と体」を身に付けさせ、社会をたくましく「生き抜く力」を育む教育活動が展開される学校づくりを行う。
- 「豊かな人間性」を身に付けさせ、社会の形成者としての普遍的な道徳心や規範意識、そして自己有用感をもって「人の役に立つ喜び」を育む教育活動が行われる学校づくりを行う。
- 多くの場面で地域との連携を図り、地域とともに児童を守る、地域とともに心を育む、地域とともに学力を向上させる「地域とつながる」学校づくりを行う。
- 教育環境の点検・整備・改善に努め、いじめ、不登校、発達課題、進学・進級、学力不振等、児童や保護者の相談体制を充実させ、「安全安心で信頼される」学校づくりを行う。

【目標達成に向けて取り組む項目】

- I 『確かな学力・健やかな心と体』 II 『豊かな人間性』 III 『地域とつながる学校』 IV 『安全安心で信頼される学校』

I 『確かな学力・健やかな心と体』を育むために

目標	具体的取組	自己評価・課題と対応策	達成率
○授業改善の取組を推進する。	<input type="checkbox"/> 授業を中心とした教育活動全般の発信 <input type="checkbox"/> 自己申告授業観察、日常的な授業観察による授業改善 <input type="checkbox"/> 全教員による校内研究の充実 <input type="checkbox"/> 小学校教育研究会への積極的参加	◇教員の授業力は「授業を見られること」で最も伸長する。絶えず校長による授業観察を行い、指導助言を繰り返した。またその様子を毎日ホームページで発信すること（年間4000件以上）により「授業第一」の意識を高め、教員個々の授業力向上を図った。 ◇年間を通した講師を招き「言葉で伝える力」を育成する校内研究も授業研究を中心に充実させることができた。今後もお互いに授業を見せ合い、高め合う雰囲気を醸成していく。	80%
○健康な心と体の育成を図る。	<input type="checkbox"/> 「小宮小のきまり」をもとにした基本的な生活習慣の定着 <input type="checkbox"/> 課題意識をもった心と体の健康づくり	◇必ず守らせる必要最低限のルールに見直すとともに、それを全学級で徹底することで基本的な生活習慣の向上を図った。今後も児童の安定した生活習慣の定着と維持に取り組んでいく。 ◇年間を通した健康づくりへの取組は、まだ不十分であった。児童の体力低下を感じる場面もある。健康保持の増進と体力向上に対する児童の意識をより育てていくことが次年度への課題である。	70%

II 『豊かな人間性』を育むために

目標	具体的取組	自己評価・課題と対応策	達成率
○自他の生命の尊重、人権尊重の意識を向上させる。	<input type="checkbox"/> いじめ調査と聞き取りの実施、いじめ防止対策委員会の対応力強化 <input type="checkbox"/> 不登校児童に対する組織的な対応 <input type="checkbox"/> クラブ活動・委員会活動や「伝える朝会」など「子どもだけでできる」児童の主体的活動の推進	◇「いじめを見逃さない」という立場に立ち、丁寧ないじめ調査を行った。重大ないじめの未然防止を図っている。毎週全教員参加のいじめ対策夕会、担当教員による対策委員会の実施は、情報共有と課題解決に有効であった。 ◇不登校傾向の児童に対し、家庭と綿密な連携を図り、改善へ向けて複数の教職員で対応した。さらに充実できるよう今後も継続する。 ◇「子どもだけでできる」意識の向上を図り、児童主体によるクラブ活動・委員会活動の運営が軌道に乗っている。	75%

○人とつながる力の定着を図る。	□返事・挨拶・丁寧な言葉遣いの定着のための日常的・継続的な指導、挨拶運動の実施	◇年間を通して校門での朝の挨拶推進に取り組んだ。元気に挨拶を交わせる児童が増えている。すべての教育活動を通したマナー・エチケットの向上や、人とつながる会話力の更なる定着はこれからも課題として取り組んでいく。	75%
○特別支援教育の充実を図る。	□児童の実態に基づき、個に応じた指導の創意・工夫 □特別支援教室拠点校として2校連携の中での授業改善 □特別支援教育におけるスクールカウンセラー、臨床発達心理士等との連携	◇特別支援教室において、連携型個別指導計画の作成を行い、個々の児童の困り感、保護者や在籍学級担任の思いを共有した。またカウンセラーや臨床発達心理士と連携しながらコミュニケーションスキル等の向上を図った。次年度も全教員に特別支援教育の研修を位置づけ、児童理解や指導技術の向上を図っていく。 ◇特別支援教室拠点校として巡回校との連携をより密にしながら各校の課題解決へ向けて授業改善を図った。	80%

Ⅲ『地域とつながる学校』づくりのために

目標	具体的取組	自己評価・課題と対応策	達成率
○地域に開かれた教育環境をつくる。	□学校運営協議会の充実、学校運営協議会による小中一貫の取組の実施 □小中一貫教育・保幼小連携の充実 □地域のボランティア活動、放課後子ども教室の活動を推進する。	◇毎月の学校運営協議会の中で、引き続き学校を強く支えていただいている。学校運営協議会企画の漢字検定や青少年対策委員会による石川地区3校合同意見発表会を実現することができた。今後も地域との協働を強めていく。 ◇折に触れて3校の校長で情報交換と共有を進めることができた。6年生の中学校訪問や中学校生徒会による説明会を実施し、授業参観を伴う合同研修も行った。 ◇PTAや地域ボランティアと協働して、放課後子ども教室「こみー」や放課後算数教室「さみー」を継続的に開催し、多くの子どもたちが参加した。	80%

Ⅳ『安全安心で信頼される学校』づくりのために

目標	具体的取組	自己評価・課題と対応策	達成率
○児童・保護者にとって安全・安心な教育環境をつくる。	□教職員間の連携の充実と資質の向上 □地域の関係諸機関と連携した協力・相談体制を確立 □児童自らが危険を予測し、回避する能力の育成 □施設・設備の安全の徹底と環境整備の充実	◇会議を減らし、児童と向き合う時間や教材研究の時間を増やす一方で、組織内連携の重要性をことあるごとに確認した。報告・連絡・相談の徹底と複数確認、分掌の枠を超えた協力体制を推進した。服務事故防止の研修も複数回実施した。 ◇毎週木曜日のスクールカウンセラーと児童・保護者との面談を充実させた。必要に応じて地域の関係諸機関と連携を取り問題解決に努めた。 ◇避難訓練を計画的に実施したが、ほぼ前年踏襲になっている。今後、昨今の災害状況を鑑み、内容の刷新による児童の意識と対応力向上を目指したい。 ◇管理職による毎日の安全点検と、全教職員による毎月の施設設備点検を行い、より安全性を高める修繕と児童が安心して生活できる環境整備に努めた。	70%